

2023 年合同例会 A グループ唐松岳登山報告

記 高崎真一

コロナ禍以後、初の信州での HUAC 例会を終え、A チームは八方尾根から唐松岳を目指しました。三浦さん夫妻、後藤さん母子、赤星さん（SL）、高崎（CL）の 6 名で構成された A チームは、年齢も高く持病のあるメンバーもあり無事登山できるか懸念されましたが、特に問題なく唐松岳に至ることができました。二日目の朝は、前夜降った雨も上がり、黒部側は雄大な剣と立山連峰が眼前に広がり、大町側は、雲海をまとった白馬連山が望め、前日の視界不良が嘘のように展望が良く、最高の夏山を堪能できました。以下、登山記録を三浦さん、後藤さんから頂いた写真を交えて報告します。

1. 日時 2023 年 7 月 23 日（日）～24 日（月）
2. 参加者：CL 高崎真一、SL 赤星逸夫（最年長 81 歳）、三浦道子、マタウシュ ハンス ユルゲン、後藤博子、後藤遙介（後藤さんの 3 男で松本在住）
3. 行動記録：7 月 23 日

8:15 黒菱駐車場から B グループと合同で出発予定であったが、勘違いがあり集合できず A グループ単独で出発。黒菱第 3 ペアリフト、グラートクアッドリフトを経て八方池山荘に到着。途中のリフトは、高さが低位置に変更されたため、斜面すれすれにゆっくり飛んでいる感覚でお花畑を鑑賞できた。



9:10 登山届を提出し赤星 SL がトップで出発。展望は良くないが、咲き乱れる高山植物を愛でながら順調に高度を稼ぐ。

10:06 八方ケルン到着。

10:15 3 ピッチ目に八方池到着。ガスっているが、時折晴れると不帰キレットの稜線が見える。



- 11:10 途中少し広いところで昼食。 11:45 扇雪溪で小休止。
 12:25 丸山ケルン到着。ケルン直下で雷鳥の親子と遭遇。3羽の子鳥が可愛い。
 14:10 唐松頂上小屋到着。夏休みに入ったためか登山者が多く、少し難しい箇所では渋滞が生じたが、全体的に良く整備された登山道が続き楽に登れた

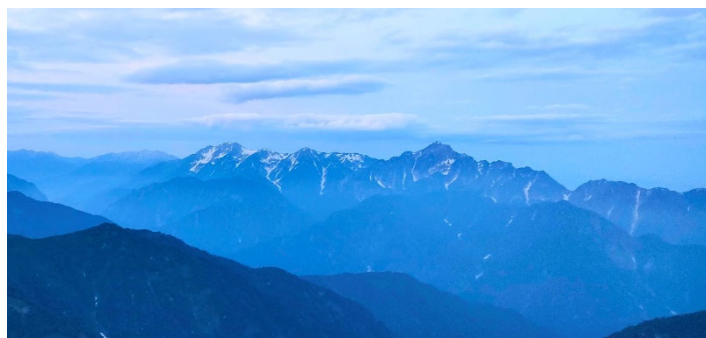
高崎以外の5名は小屋泊まり。高崎はテント泊に分かれた。小屋泊(1人15,000円)、テント泊(一張2,000円+1人2,000円=4,000円)。

後藤母子、三浦夫妻はそれぞれ空身で唐松岳へ登頂。午後6時頃から夜中の午前1時頃まで断続的に雨が降り続け、テント泊は厳しい物になるかと心配したが、最近のテントは素晴らしく雨漏り一つ無く濡れることはなかった。小屋組は、夕食後シャンデリアのある喫茶室でワインや日本酒を飲みながら親交を深めたとのこと。



7月24日

- 4:20 頂上展望と御来光を期待しつつ小屋前に集合し、頂上アタック開始。前日登頂した三浦夫妻は、小屋の反対側の丘陵で大パノラマを堪能した。
 4:40 唐松頂上。高曇りで風もなく頂上からの360度の展望はすばらしかった。下の写真は、左が雲海をまとった白馬連山。右が剣から立山の稜線。残念ながら御来光は、雲に遮られ見えず。



- 5:20 5時過ぎに下山を開始し山小屋に到着。それぞれ朝食を取り下山準備。
- 6:40 唐松山荘より下山開始。天気良く、快調に下山する。
- 7:20 丸山ケルン到着。小休止。
- 8:10 扇雪溪で小休止。雪上訓練を思い出しながら、久しぶりにキックステップで雪溪を登る。小休止。
- 9:00 八方池到着。大休止。
- 9:45 第2ケルン到着。トイレ休憩。
- 10:30 に八方池山荘に到着。車を配車頂いた後藤さんのお迎えがあり合流。

今回の山行で最も心配したことは、前日に黒菱駐車場に向かう途中、道が狭く急勾配だったため乗り捨てた高崎のキャンピングカーを、対向車に迷惑をかけずに下山させる方法でした。思案の結果、後藤さん家族の携帯電話にあるLineをトランシーバーの様に使い、3台で連絡を取り合いながら、三浦車が偵察車として先発し、対向車の有無を確認し、次に後藤車が、登ってきた対向車を離合場所に引き入れ待機させる役目を果たしてもらい、最後に、安全を確認してからキャンピングカーを移動させることで、無事下山することができました。

ほっとした気持ちで、昼食に美味しいそばを頂き、それから白馬雪溪近くの露天風呂「おびなたの湯」に入りKCへ向かった。

KCでは、阿部さんと青景さんに用意して頂いたBBQを食べながら、ビール、ワインを飲みながら楽しかった山行を振り返りました。なかなか素敵な山行でした。

